

## 第四章 Q & A

基礎学習システムの導入を検討されている先生や、導入して間もない先生から寄せられた、代表的な質問・質問事項をまとめてみました。

質問 「指導方針がうまく切り替えられるか心配ですが」

[答] まず、保護者へアンケート(A)をして下さい。「基礎学習を歓迎する」声が圧倒的に多い筈です。続いて、「指導方針の転換」(B)を宣言します。これで思い切って行動できます。(A・B用紙発売中)

質問 「同じものを2~3冊も繰り返させると、飽きたり嫌がったりしませんか?」

[答] 低学年生や集中力のある生徒は、むしろ楽しんで反復します。そうでない生徒が嫌がったとしても、真に習熟するまで励ましてリードしてやるのが大切です。

生徒が繰り返しを嫌がった場合、「幼稚園や1年生の友達もやってますよ。」「これは教室の決まりです。」など、毅然とした態度で接することが大切です

「A君は繰り返しが2冊なのに、僕はどうして3冊もやるの?」などという生徒には「A君は級だからね、君も頑張って追いつこうね。」と納得させます。

質問 「非常に良くできる生徒、例えば学年相応の練習帳を学習していても質問もなく、間違いない場合でも、繰り返させるのですか?」

[答] 1冊を1時間前後のスピードで仕上げる生徒には1冊ずつ進めてもかまいません。ただし、基礎計算の級が順調に進んでいるかを確認して下さい。(42頁参照)

質問 「生徒の能力に応じて教材を与え、繰り返し頻度を決めるとのことですが、どうやって能力を把握するのですか?」

[答] 基礎計算テストで級認定(20頁参照)をします。「基礎計算の合格級と練習帳の対応表」を見ながら、進度調整や繰り返しの頻度を決めます。(42頁参照)

質問 「導入がうまくできるか不安です。」

[答] まず、在塾生全員に実力テストを実施します。次に基礎計算テストをします。最初は授業時間を10~30分ほど延長するつもりで導入するのが良いでしょう。

少し慣れてきたら、基礎学習練習帳も学習させましょう。宿題で持ち帰らせると、保護者も安心します。このように在塾生には、珠算と併用で導入し、先生自身が経験を積んだのち、新入生から基礎学習の指導を行って下さい。保護者と連絡を密にしながら、徐々に指導法を切り替えて下さい。

質問 「低学年や幼児に入塾して欲しいのですが、何か良い募集方法は？」

[答] 幼稚園や小学校の前でチラシを配る。在塾生に手紙を渡し、その友達や弟・妹を勧誘する。新聞折込(チラシ) ダイレクトメールによる生徒募集。これには、「新村式基礎学習のすべて」「DM用ミニ練習帳」など同封。配達はご自身でやりましょう。

質問 「このシステムで成功できるかどうか、心配ですが...」

[答] 「ある先生」は、「当地は学習塾や公文教室が乱立しています。基礎学習のおかげで、幼児や1～2年生の子でいっぱいです。」

この基礎学習システムは、学校の成績向上につながり、いかなる宣伝文句より効果があります。**長期展望**のもとにお考え下さい。

質問 「算数指導の経験・資格がなく不安です。私にできるでしょうか？」

[答] 基礎学習「練習帳」は、生徒が楽しみながら自学自習できるように編集してあり、また、この指導書には、当社30年の経験とノウハウが詰め込まれていますので、経験や資格がなくても十分に指導できます。ご心配いりません。

**先生の主な仕事は、**

1. 生徒を励まして学習意欲を持続させること。
2. 生徒の学力に丁度合った教材を与えること。
3. 適切で十分な反復学習をさせること。
4. 弱点を早期に発見して補強すること。

などです。その具体的な方法はすべて、この指導書の中に書かれていますので、十分に熟読されて、その通りに実行することにより、成功することができます。

実際の指導に入る前に、ご自分で全ての練習帳を、1冊ずつ学習してみてください。(答を赤ペンで記入すると、**採点用の解答**として使えます。)

年に1～2回は**セミナーや説明会**などへの参加をお勧めいたします。新しい指導情報や他の先生の体験発表など、参考になることが少なくありません。

指導に際し、疑問・悩みなどが生じましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。あとは、先生の決断次第です。

著者 新村 清志 © K.Niimura 2005

1985年10月 初版第一刷発行・不許複製

発行 株式会社新村教育研究所 〒175-0092 東京都板橋区赤塚 7-26-7

TEL.03-3938-4545 FAX.03-3976-0021